

都マンション

新規発売66%増

6月5130戸 5カ月連続プラス

不動産経済研究所(東京・新宿)が15日発表し、6月のマンション市場

動向によると、首都圏(東京、神奈川、埼玉、千葉の1都3県)の新規発売戸数は5130戸で、前年同月比66・6%増と大幅に伸びた。前年実績を上回ったのは5カ月連続。

売れ行きを示す契約率は83・9%で、好調を示す70%を大きく上回った。70%を超えたのは6カ月連続。2008年のリーマン・ショック後から

ら落ち込んでいた消費者の需要が回復してきたもうつだ。

同日発表した1~6月

の新規発売戸数は前年同

期比27%増の2万171

戸。1戸当たりの平均価格は4712万円で、同

5・2%増となった。

マンションの供給元が大手

デベロッパーや商社など

資本力のある企業に限られ、都市部の物件が増えたことから平均単価が上がったという。

ヨン各社が在庫圧縮を進

めた結果、半年間で約1

900戸減り、在庫が積

み上がった08年末の半分

以下の水準になった。

マンション調査のト

タルブレイン(東京・巣

の久光龍彦社長は「好立

地で値ごろ感のある物件

が増えたことや、低金利

や税制優遇などの売れる

条件がそろっている」と

分析。一方で「税制優遇

などの条件に助けられて

いる部分もあり、本格的

な回復はまだ遠い」と指

庫は5481戸。マンシ

ョン各社が在庫圧縮を進めた結果、半年間で約1900戸減り、在庫が積み上がった08年末の半分以下の水準になった。

マンション調査のト

タルブレイン(東京・巣

の久光龍彦社長は「好立

地で値ごろ感のある物件

が増えたことや、低金利

や税制優遇などの売れる

条件がそろっている」と

分析。一方で「税制優遇

などの条件に助けられて

いる部分もあり、本格的

な回復はまだ遠い」と指